

娘が、中学2年生の6月に突然、留学したい、と言い出した時には驚きました。

通っていた公立中学校は、それまで留学生を出した事例がなかったので、初めは私も担任の先生も戸惑い、反対しました。しかし、子供の決意が固く、市の教育委員会や学校の校長先生が、子供の希望を受け入れ、そんな折、ジャパンセンターさんに出会い、何と3カ月後の9月には、カナダ・ビクトリアの中学生になっていました。

その後、高校進学もお世話になり、この6月に、無事カナダ・ケローナの高校を卒業することができました。その間、何度か日本へ帰ってきていたので、12歳の時から、国際線を乗り継いで日本とカナダをたった一人で往復できたのも、アドバイスをいただいたジャパンセンターさんのお陰だと思っております。

私も子供の生活が見たくて、初めて子供がカナダに向かう時に一緒に行ったのですが、バンクーバーに着いてすぐ、乗り継ぎの飛行機に遅れてしまい、携帯からジャパンセンターの高橋社長へ日本時間では朝の4時前だったのですが、慌てて電話したのが、今は懐かしい思い出です。登校日にも現地の中学校へジャパンセンターのスタッフの方が出向いてくださいましたし、私も自分の目で娘が通う中学校やホームステイ先を確認し、とても良い環境で学ぶことができることを実感して、留学させて良かったと思うことができました。

5年間の間には、門限が厳しすぎる、ホームステイ先を変えたい、ダンスを習いたい、日本人のいない高校に行きたい、学校は留学生に厳しいので、学校を休んでしまっって強制送還か？ などなど、実際いろいろなことがありました。そんな時も、現地と調整し、親身になってジャパンセンターさんが対応してくださいました。娘の5つ年上の姪も、大学留学の時にお世話になりました。

また、ホームステイ先での経験なのか、家に戻ると、家事一切を行い、料理も得意で、頼もしく感じます。日本にいる間は、海外の友人と北海道で会ったり、東京で会うなど、楽しんでいるのが伝わってきます。日本の高校3年生なら、受験勉強の時期なのに、そうした強制的な感覚の中にいないことは確かです。

子供は今、心理学や生医学を勉強したい、ということでアメリカとオーストラリアの大学から合格通知をいただいています。大学は自分で調べ、論文を提出し、選んでいますので、一番行きたい所に行くと思います。

先日、高橋社長さんから、「17歳で、海外の大学とやりとりして、自分で決めていくなんて、普通なかなかできないですよ。」と、言っていただきました。確かに、中学の時は、英会話もよくできない状態でカナダに行き、今は自分の進路を自分で切り開いているのですから、本当に成長したと思います。

私が、子供に学んで欲しいことは、くじけなければ何度でも、やり直しができる、ということ。まだ17歳で、大変な思いはしていないかもしれませんが、海外での経験が、枠にとらわれない自由な発想と、自分から行動する自立した人間になりつつあることを、うれしく思います。

今まで細かいことに、その都度、丁寧に対応して下さったジャパンセンターさんに心から感謝申し上げます。

(有) ウエルネス 代表取締役

加賀野の森 総施設長 神原美智子